



教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

東浦町SP通信

～東浦町では、学生ボランティアを“職員の仲間”という思いを込めて、
「SP」または「スクールパートナー」と呼んでいます。～

第22号

2024年3月18日

編集 緒方 なな
東浦町教育委員会
SPコーディネーター

2023年度もありがとうございました

2023年度の東浦町SP活動も、残すところあと数日となりました。今年度は131名の学生さんが東浦町のSPとして登録・活動をしてくださいました。その中で、ウィークリーSPとして活動してくれた学生さんは80名。10年間のスクールパートナー事業の中で、最も多い人数です。この“SP”という言葉（事業）は、片葩小学校の「わくわく算数教室」から始まりました。最初は、特定の大学の学生数人から始まった活動でしたが、学生さんから学生さんへとこの文化が繋がり、今では県内県外問わず多くの大学から学生さんが集まってくれる、一大事業となりました。参加してくれたSPさんの力、次の世代へのバトンがあったからこそ、今日までSP活動が繋がっているのだと思います。ありがとうございます。

東浦町のSP活動は、^{ウィンバイフォー}「Win×4」を目標にしています。この「4」とは、「学校」「子ども」「SP」「保護者」のことです。学校にとっても、子どもにとっても、SPにとっても、保護者にとっても「Win」な活動になっているだろうか？と、日々考えています。学校にとっては、SPさんのマンパワー・熱量がたいへん有難いものになっています。新しい風を吹かせてくれる存在です。子どもにとってはいわずもがな、寄り添い・共に時間を過ごし・先生よりも近い存在であるSPさんはかけがえのない存在になっています。保護者としても、学校へ行って子どもたちが楽しく過ごせる・勉強できる手助けをしてくれるSPさんには感謝ばかりです。では、SPさんにとってはどうでしょうか。みなさんにとっても、学校現場・子どもたちの“今”を知ることができる「Win」な活動になっていたら幸いです。

今、現場は、学習指導要領にある「個別最適な学び」「協働的な学び」に向けて、大きな過渡期にあります。今年度活動してくれたSPさんから、「自分たちの受けてきた教育とは変わってきている」という言葉を何回も聞きました。みなさんが感じたこと、学んだことを、これからも生かしてもらえたらと思います。そして、東浦町にはオープン・スクールがありますし、そのオープン・スクール以外の各小中学校でも積極的に「個別最適な学び」「協働的な学び」に向けて取り組みが進められています。過渡期にある今だからこそ、現場の生の声を聞くチャンス！見るチャンス！数年後・数ヶ月後・数日後には、みなさんが学校を、日本の教育を作っていくことになると思います。現場で子どもたちとの関わりを楽しみながら、学校について、教育について深く考え、学んでもらえたらと思います。

来年度も引き続きSPさんを募集しています！多くの学生さんが参加してくれることを願って、今年度の「SP通信」を締め括りたいと思います。一年間、ありがとうございました。来年度も、よろしくお祈りします！

最後に……。SP活動をしていて、「困ったなあ」「これはどうしたらいいのだろうか」と思うことはありませんでしたか？「授業中なのに、子どもたちが話しかけてきてしまい、先生に指導されてしまった。」「正直、今、この授業で大人の手（SP）は必要ないかもしれない。」「担任の先生に聞きたいことがあってもなかなか聞ける時間がない。」など、人それぞれ悩み・葛藤しながら活動してくれていたのではないかと思います。SPさんにもそうした“思い”があるように、先生たちにも「SPさんにもっとこうして欲しい」という“思い”があります。そんな先生たちの“思い”を今回、片葩小学校の校務主任の先生が教えてくださいました。ぜひご一読ください。

いつも子どもたちのために心を尽くしてくださり、ありがとうございます。明るく前向きに子どもたちと向き合ってください、SPさん。学生だからこそできる向き合い方で、私たちの気持ちをくみ取って活動してくださることを、本当に有り難く思います。新しく活動を始められる方も多いので、片葩小の教職員を代表して、SPさんをお願いしたいサポートのあり方を確認させてください。



黙ってじっとしている児童・固まっている児童の支援を最優先に！

「先生教えて！」と言える子は、自分で解決できる子が多いです。自分から言えず、気配を消すように何もできずに座っている子に支援が欲しいです。担任が本当に助かるのは、“黒子のようなサポート”です。



担任の意図をくみ取って必要なサポートを探す

先生が子どもたちにどんな課題を与えているのか。一人で頑張らせるか、仲間と乗り越えさせるか、大人の支援が必要か。状況を見極めて、サポートするかどうか判断してみてください。手を出しすぎずに見守るのも大切です。



**たっぷり遊んでほしい！
切りかえが必要な時には・・・**

放課はぜひともたっぷり遊んであげてください。楽しい時間を過ごした後は「メリハリ」「切りかえ」です。話し続ける子・夢中になって周りが見えていない子には、「今から何する時間？」と声をかけるだけで、気づくことができます。



様子を見て、担任へ相談

子どもたちは一人一人、苦手なこと・得意なことが違います。特に、特別支援学級の児童はその振幅が大きく、我慢できなくて怒ってしまうこともあります。どこまでするとよいか迷うことがあると思うので、困ったら担任に相談して進めてください。



交流学級では寄り添ったサポートを

特別支援教室から所属する通常学級へ行く時＝子どもたちは授業に不安を抱えながら交流に向かう時です。しっかりと寄り添ってサポートし、その児童へのサポートに専念してください。様子を見て、自分でできそうなことは本人に任せてください。



サポートするクラスや内容の指示がない場合は・・・

算数や体育、実験や実習など、人手が必要そうな学年や学級へと臨機応変に移動してもらえるとありがたいです。学級によっては授業変更もありますので、指定された授業に行ったものの特にサポートすることがない場合(テストなど)もあります。

★とても大切なポイント★

授業が始まる前に担任の先生たちに、その授業でサポートが必要になりそうな児童を確認してもらえるとスムーズです。時間がない中ですが、ぜひ相談してみてください(^^)